

## MEDINFO について

東京大学医学部

開原成允

MEDINFO 77 とは正式の名称を The Second World Conference on Medical Informatics といい、これを主催している組織は情報処理国際連盟(International Federation for Information Processing 略称 IFIP) Technical Committee 4 (正式の名称を「Information Processing in Health Care and Biomedical Research」)である。そもそも IFIP とは 1959 年 UNESCO が主催した情報処理に関する国際会議を契機として 1960 年 1 月に発足した国際組織である。発足当時 18 ケ国、現在は 34 ケ国を構成員とする大きな組織である。ちなみに、わが国は発足当時から情報処理学会がその構成員になっている。この中には技術委員会が 10 あり、種々の分野の情報処理の問題を扱っているが、この中で TC-4 は 1967 年パリにおいて発足した比較的古い委員会では、医療情報科学の研究、知識の交換、教育を行なうことを目的としており、わが国では情報処理学会の中のこの医療情報処理研究会がこれに協力しつつ活動を行なっている。

第 4 技術委員会は医療情報科学の進歩が近年特に目ざましいため、3 年前の IFIP の大会から医療関係の部門を半ば独立させた形で運営することとした。これが MEDINFO のはじまりであり、1974 年ストックホルム大会の時は第 1 回にあたり、今回のトロントが第 2 回目である。

今回の MEDINFO 77 はカナダの医療情報処理の専門の学会である Canadian Organization for Advancement of Computers in Health (略称 COACH) が、ホスト役になって開催されオンタリオ湖のほとりにある新しくできたハーバキャッスル・ホテルの会議場を使って開かれた。カナダ側の献身的な運営によって整然と運営された気持のよい学会であったが、ただ不幸なことに開催の前日からカナダの航空管制管のストライキがはじまりカナダの飛行場が全て閉鎖された。このため、トロントにいく人々は米国のバッファローからバスでカナダに入国するという事になった。従って、第 1 日目は、座長や演者が間に合わない場合が多かったが、Session 毎にその直前に朝食又は昼食をとりながら打ち合わせをするということになっていたので、混乱なく会が運営できたのはせめてもの幸であった。

今回の参加人員は、こうした事情のため予定よりやや少なかったが、開催前日迄の登録の段階で 32 ケ国 700 名、当日の登録を加えれば 800 名以上に達したようである。日本からは事前登録で 7 名、当日の登録を含めると 50 名弱の参加があったものと思われる。集まった人々は、座長に各分野の最も秀れたリーダーと考えられる人々を選んだためもあり、その分野に関係する著名な人々がほとんど全て集まったと考えてもよい感じであった。

Session は全部で 24 Session それにポスターセッションが 3 Session あり、発表された論文が 192、ポスター 54 であった。Proceeding は 1000 頁を越えるハードカバーの立派な本として配布された。この本は別に通常の本としても North-Holland 社から発売されるが、現在の医療情報科学の成果が 1 冊の本の中に集大成されたという意味で、この本が一番価値があるともいえよう。

今回の Session は最初に座長がその分野の現状と将来についての展望をまず講

演ずるように構成されていた。従って、この「まとめ」の部分が Session の中でも Proceeding でも一番価値があり、これまでの知識を集約して参照することができる。日本からは 20 題以上の発表があり、討論も活発であった。

ここで、触れておきたいことは、こうした学術大会の意義についてである。最近、学会の数が大変増えてきたため、学会に出るだけでも大変であるし、又、学会が大きくなればなるにつれ、その中身がすでに知られたことの繰り返しに終わってしまう、と言われる。この傾向は私自身も認めるものであるが、この医療情報科学の分野に限って言えば、比較的新しい技術を扱っているだけにその分野の進歩も速い。従って、全体を展望し、自分のやっていることの位置づけが仲々出来にくい。この意味では、現在世界中で行なわれていることを一堂に会して、その知識を集大成してみることは大変意義がある。

ある医学教育にコンピュータを使っている人が、ここに来て初めて他の同じことをやっているグループのことが分かり意見を交換できて大変よかったと言っていた。この言葉がこの大会の意義を最もよく表わしているのではないかと思う。

なお、この MEDINFO は 3 年毎に開かれることになっており、第 3 回目は、1980 年 10 月日本の東京で開催される。大島正光教授が組織委員長、AMHTS で有名な米国の M. Collen 教授がプログラム委員長になって、現在準備が進んでいることを付け加えておく。